

2Bと食料の調達中



彼女が歩くたびに
大きなお尻が。フル。フルと揺れている。

モニ
モニ

手を伸ばし有り余った尻肉を
揉みしだいてみた。



一瞬

驚いた素振りを見せた2Bだったが
その後は好きなように
お尻を揉ませてくれた。

モニ モニ

とりあえず食料の調達は一旦中止。
このムラムラを解消するために
彼女を屋内へと連れていった。









んはア~

はーっ~

ハハ~

う~
う~
う~

ふる~
る~

ア
ル

カ~

ゴ~
~

2Bがこちらをジツと見ている。
食事中。



どうやら
この味が気になるようだ。
食べようとしていた物を差し出した。



可愛い。

食事を終えた。
お腹も膨れ、満足な気持ちになると
ふつふつと違う『欲』が沸いてくる。

まん
ぶく。



柔らかな唇をなぞり
彼女と共に
三大欲求を満たすことになった。

ふく。

カイ

!

息を彼女の股に擦りつける。
亀頭から伝わってくる
柔らかな感触が癖になりそうだ。

巨乳を揉み
服の上から分かるぐらい
固くなつた乳頭をつまんだ。

唇にキスをし、次は舌を絡ませた。
甘い味と、彼女の吐息が心地いい。

肉付きのいい太ももとマン肉で
愚息が挟まる。
エロい。

対面することで
視界は彼女の顔とたわわな巨乳で
満たされていた。

匂いを嗅ぎ、見るだけで
性的欲求が刺激される。
本能の赴くままに腰を振り
気づいた時には射精を行っていた。



まだ欲をもて余している愚息に
2Bはしゃやぶりついた。



温かな唾液が絡み付き
亀頭を舌で丁寧に舐められ
腰が浮くような快感に襲われる。



彼女のサラサラとした髪を撫で
そろそろ迎える限界に身を任せた。

出したばかりだというのに
先程よりも大量に精液が吐き出された。

ヒヒ、
ヒヒ

ヒヒ、
ヒヒ

ホロホロ、
ホロホロ

溢しながらも口いっぱいに含み
愚息から解き放たれた
熱い欲情の塊を

彼女は喉を鳴らしながら
美味しそうに吸い付いていた。

ミンニ~

ふわ~

ヒュレヒュレヒュレヒュレ

ヒ

どうやら彼女は満足していないようで
再び愚息に息を吹き掛けた。
まだまだ夜は長そうだ。



フ
ハ
ア

薄い微笑を浮かべながら
2Bはこちらを見つめてきた。



ごくりと飲み干し
息を吐いた。

2Bとソファーでくつろいでいる最中
唐突にムラムラとした欲求が
込み上げてきた。

考えるよりも先に
セクハラを開始した。

モミモミ

柔らかい。

布をずらし、生でその巨乳を堪能する。
手のひらには
魅惑的な感触で満たされていた。

ついでに乳首を
こりこりと弄つておこう。

名残惜しいが
巨乳から手を離し
今度は下の方へと移動する。

すりすりと指で
彼女のワレメをなぞつた。
少し濡れている。

左手で乳頭を揉み続け
右手で激しく責め続けた。

布越しだが
指を中に食い込ませると
しつとりと締め付けてきた。

夢中になつて弄り続けていると
2Bが限界に達したようだ。

エロい。

絶頂と同時に
色々といやらしい液体を吹き出し
身体を仰け反らせた。

絶頂の余韻に浸っている2Bを見ながら
彼女の液体で濡れた指で
楽しむように乳部を弄り続ける。

しかしそろそろ股関が限界だ。
ズボンの中でいきり立っているのが分かる。
少し苦しい。

彼女にこの欲求を解放してもらう
手伝いをしてもらおう。

絶景の眺めだ。

その場で2Bを押し倒し
卑猥な格好にさせる。
肉付きの良いマ○コが無防備に晒され
ひくひくと動いているのが分かった。

そしてゆっくりと
お預けをくらつていた愚息を
待望の膣に潜らせた。

ずっとこうしていきたいと思える安心感と
キュンキュンと締め付けてくる膣に
病み付きになるような快感を覚えた。



彼女を貪るように、挿入してすぐに
激しくピストン運動を開始した。

肉と肉がぶつかり
粘液が絡み合う音が響く。

とてつもなくエロい彼女を視界に写し
さらに早く、もつと激しく、
本能の赴くままに愚息を子宮に押し付けた。

そして限界を迎える腰を深く落とした。

愚息を根元までどつぶりと潜り込ませ
亀頭で子宮口を開き
その中へ濃い精液を大量に噴出した。



キュンキュンと締め付け
美味しそうに
亀頭に吸い付いてきた膣から
愚息を抜き出した。

白く濁り
濃く、湯気を上気させる子種の塊が
彼女のワレメからどぶんと漏れ出す。

彼女と共に余韻に浸かる。
至福の時だった。

2B就寝前。
2Bがこちらをジッと見つめていた。











やつぱり2Bはエロい。



























































